

数学教室の中庭の記憶

元事務職員 篠崎 由加里

私は、昭和61年（1986年）から平成9年（1997年）、そして平成16年（2004年）から令和2年（2020年）までの間、数学事務室で勤務させていただきました。

このたび、同窓会誌への寄稿のご依頼をいただき、長年心の奥にしまわれていた数学教室にまつわる記憶の中から、現在の中庭ができた経緯を記録として残すことにいたしました。とはいえ、年月の流れとともに記憶も随分薄れておりますので、誤りなどございましたら、ご指摘ください。

1. 就職当初の中庭とプレハブ

私が就職した昭和61年ごろ、数学教室の中庭には、約16坪のプレハブが東西にわたって建てられていました。これは修士学生の控室として使われており、東側が修士2年生、西側が修士1年生のスペースでした。

室内は整理整頓されているとは言えず、入室する際には「ノックしてから少し待つように」と先輩から教えられました。数秒の間に片付ける時間を確保するためだったのでしょう。それでも靴を脱いで入室するには少し勇気が必要な状態でした。

控室の中では、学生同士が仲良く協力し合い、研究に集中できる空間が自然と形成されていました。特に修士論文の提出時期には、夜通し研究する学生の姿が見られ、疲れた様子でプレハブから出てくる光景が、年末年始の風物詩のようでした。

当時はまだ用務員の宿直制度があり、当時用務員として勤務されていた澤見さんや北尾さんが、夜遅くまで残る学生たちを気遣っておられた姿が印象に残っています。用務員さんと学生が深夜まで話し込んだということも何度か聞きました。

2. プレハブの撤去

その後、耐震工事の影響もあり、修士学生の控室は3号館（北側の旧地球物理学教室部分）、1号館、4号館（宇宙物理学教室の4階）へと移転しました。

役目を終えたプレハブは、一時的に数学教室の倉庫として利用されていましたが、老朽化が進み、床が抜けたり扉の開閉が困難になったりするなどの問題が発生。そして最終的には消防法に抵触する恐れがあるとして、2010年に撤去が正式決定されました。



プレハブの屋根

3. 中庭再生に向けて

プレハブ撤去後の跡地利用をめぐるっては、三輪哲二先生をリーダーとした臨時ワーキンググループが結成されました。メンバーは上先生、國府先生、用務員や事務職員を含む約10名で、幾度も協議が重ねられました。

また、研究員・学生・教員全員を対象としたアンケート調査が行われ、「どのような中庭が望ましいか」を問いました。予想を超える回答が寄せられ、皆さんの中庭への思いの強さを実感したのを覚えています。

その中でも特に重視された意見は：

- 一年を通じて花が咲いていること
- 憩いの場として利用できること
- 歩きながら考えられるような回廊式であること

でした。

4. 現在の中庭の植物たち

アンケートを踏まえ、ガーデンデザイナーの方が何度もデザイン案を描いてくださり、話し合いを重ねた結果、現在の回廊式の中庭が誕生しました。施工期間は約半年。構成員の希望をできる限り反映しつつ、予算や維持管理の点にも配慮がなされました。

中庭のシンボルツリーは^{けやき}榲とメタセコイア。特にメタセコイアは、40年以上前に澤見さんが苗を植えたという話も残っています。



プレハブ横の枝垂桜

四季折々の植物も中庭を彩ります：

- 春：さんしゅゆ、桃、枝垂桜、山桜
- 初夏：ハナミズキ、さつき、つつじ、紫蘭、アジサイ、オリーブ、ヤマボウシ
- 秋：紅葉が広がり、季節の移ろいを感じさせます
- 冬：椿、水仙、南天、木瓜が花を添え、鳥たちの姿も見られます

特筆すべきは、プレハブの脇でひっそり咲いていた枝垂桜（写真）が、撤去後に急成長し、今では中庭の存在感を大きく担うようになったことです。

また、中庭中央付近では故・齋藤裕先生のご遺族からご寄付をいただいた椿「初嵐」がつつまじやかに数学教室を見守ってくれています。

5. 中庭のある日常

中庭が完成してからは、おそらく数学を考えながら歩いていらっしゃる先生や、ベンチで読書する学生さんの姿が見られるようになりました。その光景を目にするたび、「考えることができる中庭」に近づけたことを嬉しく感じました。

中庭完成の年には、記念行事として餅つき大会も開催され、先生方や学生、職員とその家族が一堂に会しました。これは令和元年度（コロナ禍による中止）まで続けて行われました。また、春のお花見や夏のバーベキュー大会など、季節ごとのイベントも開かれ、中庭は憩いの場として多くの人に親しまれるようになりました。

6. 最後に

この中庭の美しさが今も保たれているのは、日々、用務員の方々が業務の合間を縫って、草抜きや水やりなどの手入れを続けてくださっているおかげです。暑さ寒さにかかわらず、愛情を込めて植物と向き合ってくださいの姿には、頭が下がる思いです。

同窓生の皆様、そして現役の教職員の皆様、数学教室の渡り廊下を通られる際には、ぜひ中庭の木々に目を向け、鳥の声に耳を傾けていただければ幸いです。



2025 年春の中庭